

1. 授業の概要(ねらい)

日本人は論理的思考が苦手だといわれます。確かに、欧米主要国の人々に比べ、その点で後れを取っているのは否めません。日本では元来、自らの意見を明快に表明する習慣に乏しいうえ、そのような訓練も十分に行われていないようにみえます。しかし、グローバル化の時代に、このままではいけないと思います。

皆さんが実際に、社会に出てどのような職業に就くにしても、あるいは、大学院に進んで勉学を続けるにしても、日々直面するのが論理的思考だといっていいでしょう。具体的には、目の前に生起するさまざまな事象について、それをどう捉えて分かりやすく筋道を立てて論じたり、それにどう対処したりするか、ということです。

授業では毎回、社会・政治・経済・国際問題の中から、受講生に身近に感じられるような、注目すべき出来事を取り上げ、社説をはじめとする新聞記事などを教材にして、論理的思考の基本を学習してもらいます。

それぞれの出来事について、どのような見方や評価をすればいいのか、それはなぜなのかといったことを丁寧に説明して、受講生によく「消化」してもらい、受講生にも考えを述べてもらい、文章にもしてもらいます。そうした授業の回を重ねることによって、論理的思考力が自然と身についていくようにしたいと考えています。

2. 授業の到達目標

論理的思考とは、独りよがりの理屈を唱えることとはまるで違います。まず、おおよその事実関係をしっかりと把握する習慣と力を身につけること、次に、その事実について合理的な、妥当な判断を下せる見識を持つこと、そして、それを文章や口頭で論理的に説明する表現力を養うことが肝心です。

そうした力は何といっても文章に表すことによって養われますから、授業ではとりわけ書くことに重点を置きます。物事の要点をきちんとつかんだうえで、自らの意見を的確な文章に表現できるようになることを目指します。そうなれば、口頭での表現力も自ずとついてきます。

3. 成績評価の方法および基準

社会・政治・経済・国際問題に関する論考やインタビューなどを題材にその要点や自分の考えをまとめるレポート課題の提出を3～4回求めるほか、読解力を試す小テストを1回程度実施し、それらと、最後に行う授業内の小論文テストの出来具合を評価の二本柱に据え、さらに授業での受け答えぶりも加味して、成績を決定します。

4. 教科書・参考文献

教科書

原則として毎回、こちらで用意した教材のコピーやプリントを受講生に配布します。書き写すことによって論理的な筆の運びを身につけてもらう教材として、新聞の社説も適宜使用します。

5. 準備学修の内容

レポート課題は、指定される次回ないしは次々回の授業までに必ず、そのテーマについて十分に調べて作成し提出するように心掛けてください。次回の授業で学ぶ事柄を予告することもありますので、その場合は予備知識を仕入れて授業に臨むことが大切です。

6. その他履修上の注意事項

毎回、一つの事象を取り上げ、それについて十分に講義しておいて、受講生との間で質疑応答を行うという授業形式を取るが多くなります。したがって、受講生には授業に積極的に参加する姿勢が求められます。

社説の筆写に必要な専用のノートか200字詰め原稿用紙・ノートなどを用意してもらいます。国語の辞書や電子辞書も必携です。分からない言葉が出てきたらその都度、辞書を引くことが不可欠です。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション(米ニューヨーク・タイムズ紙記事の日本語訳を使って、論理的思考で重視される読み解き力とは何か、なぜそれが重要なかを学ぶ)。
- 【第2回】 日本、アメリカ、フランス3カ国の思考表現スタイルを比較したインタビュー記事をあらかじめ読んでおき、論理的思考力を養うためには何が必要かを学ぶ。
- 【第3回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は就活時期、就活ルール変更の問題を取り上げた)。
- 【第4回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は就職活動の在り方を、新聞各紙社説の論調を基に取り上げた)。
- 【第5回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は就活に象徴される新卒一括採用など日本型雇用制度の問題を取り上げた)。
- 【第6回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は憎悪表現か言論の自由かをめぐり日米2大学が取った対応の違いを取り上げた)。
- 【第7回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は米ニューヨーク・タイムズ紙記事＝日本語訳＝が描く現代の米学生気質などを取り上げた)。
- 【第8回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は上記記事の論理構成などに絞って議論を行った)。
- 【第9回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は女子受験生などを差別してきた医学部不適切入試の問題とその背景を取り上げた)。
- 【第10回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は上記の問題に関してレポートを提出し、それを踏まえて小論文の書き方の指導を受けた)。
- 【第11回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は安倍政権が掲げる「女性活躍」の現実を諸外国と比較しつつ論じた)。
- 【第12回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は原爆投下問題をめぐる日米識者の異なる見解を要旨にまとめる作業を行った)。
- 【第13回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度は上記日米識者の見解について議論した)。
- 【第14回】 社会・政治・経済・国際の事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2019年度はオバマ前米大統領の広島訪問が意味するものを考えた)。

【第15回】 春期授業のおさらいと授業内小論テスト(400字詰め2枚)